

株式会社 堀場製作所

2020年12月期 第3四半期決算 説明会資料

常務取締役 管理本部長

大川 昌男

2020年11月12日

説明内容

1. 2020年12月期 1-9月実績
2. 2020年12月期 通期業績予想
3. 為替の売上高・営業利益への影響
4. 営業利益分析(前年同期比較)
5. 設備投資額・減価償却費・研究開発費
6. 資金の状況
7. 株主還元政策
8. トピックス ～注力市場に向けた新製品開発～

< 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

1-1. 2020年12月期 1-9月実績

(単位:億円)

1-9月実績 半導体を除く各事業の販売減少などにより減収減益

	2019年 1-9月実績	2020年 1-9月実績	対前年同期増減	
			金額	率
売上高	1,370	1,297	▲ 72	▲5%
営業利益	120	109	▲ 10	▲9%
営業利益率	8.8%	8.5%	▲ 0.3p	
経常利益	115	107	▲ 7	▲7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	84	75	▲ 9	▲11%
為替 レート	USDドル	109.12	107.55	▲ 1.57
	ユーロ	122.62	120.93	▲ 1.69

1-2. 2020年12月期 1-9月実績 [セグメント別]

(単位:億円)

【セグメント別のトピックス】

		2019年 1-9月実績	2020年 1-9月実績	対前年同期増減	
				金額	率
売上高	自動車	520	416	▲ 104	▲20%
	環境・プロセス	138	127	▲ 10	▲8%
	医用	187	152	▲ 34	▲18%
	半導体	335	417	+82	+24%
	科学	188	183	▲ 4	▲3%
	合計	1,370	1,297	▲ 72	▲5%
営業利益	自動車	27	▲ 0	▲ 28	-
	環境・プロセス	9	7	▲ 2	▲22%
	医用	10	▲ 4	▲ 15	-
	半導体	74	98	+24	+33%
	科学	▲ 2	8	+11	-
	合計	120	109	▲ 10	▲9%

<自動車>

- 新型コロナウイルス感染症拡大による企業活動停滞の影響を受ける
 - ▶ 排ガス・MCT*: 製品出荷・検収遅延の発生

<環境・プロセス>

- 新型コロナウイルス感染症拡大による企業活動停滞の影響を受ける

<医用>

- 新型コロナウイルス感染症拡大による通院患者数の減少に伴う病院での検査数減少

<半導体>

- 半導体需要の増加により半導体メーカーの設備投資が回復

<科学>

- 新型コロナウイルス感染症拡大による企業などの研究開発投資低迷
- 半導体製造装置メーカーやライフサイエンス機器用光学モジュールの販売は堅調

※ MCT:Mechatronics (自動車計測機器)

2-1. 2020年市場環境

全般		経済活動再開も、欧州での行動制限措置再発動など、先行き不透明感は大きい 米国大統領選の行方、米中貿易摩擦などマクロ経済動向のマイナス影響を懸念
自動車		自動車関連メーカーの研究開発投資見直し、縮小による影響を受ける可能性が高い 各国・地域での行動制限措置による製品出荷・検収の遅れが発生する恐れがある
環境		経済対策により公共事業は継続されているものの、企業などでの投資は鈍い 原油価格下落による石油産業の投資減少
医用		新型コロナウイルス感染症拡大による、通院患者数の減少がグローバルで続く 中長期的には検査需要は回復へ
半導体		在宅勤務やデジタルビジネスの拡大に伴い、半導体需要の増加、半導体メーカーの 設備投資が回復
科学		半導体関連の計測需要は増加、製薬やライフサイエンス分野も底堅い 経済活動低迷の影響を受け、企業における研究開発投資は鈍い

2-2. 2020年12月期 通期業績予想

(単位:億円)

第3四半期までの業績進捗を勘案し、営業利益と経常利益を上方修正

	2019年 実績	2020年				
		前回予想 (8/11時点)	今回予想 (11/12時点)	vs 前年	vs 前回予想	
売上高	2,002	1,880	1,880	▲ 122	-	
営業利益	209	150	160	▲ 49	+10	
営業利益率	10.4%	8.0%	8.5%	▲ 1.9p	+0.5p	
経常利益	205	145	150	▲ 55	+5	
親会社株主に帰属する 当期純利益	154	105	105	▲ 49	-	
為替 レート	USDドル	109.03	107.00	107.00	▲ 2.03	-
	ユーロ	122.03	120.00	120.00	▲ 2.03	-

2-3. 2020年12月期 通期業績予想 [セグメント別]

(単位:億円)

【セグメント別のトピックス】

<自動車>

- ・ 排ガス・MCT*事業において、製品出荷・検収の遅延が見込まれる

<医用>

- ・ 引き続き、通院患者数の減少に伴う病院での検査数減少を見込む

<半導体>

- ・ 半導体需要増加に起因した販売増加による上方修正

<環境・プロセス、科学>

- ・ 3Qまでの進捗に鑑み、予想を上方修正

		2019年	2020年			
		実績	前回予想 (8/11時点)	今回予想 (11/12時点)	vs 前年	vs 前回予想
売上高	自動車	810	680	670	▲ 140	▲ 10
	環境・プロセス	195	175	180	▲ 15	+5
	医用	253	220	210	▲ 43	▲ 10
	半導体	471	540	555	+83	+15
	科学	271	265	265	▲ 6	-
	合計	2,002	1,880	1,880	▲ 122	-
営業利益	自動車	64	5	5	▲ 59	-
	環境・プロセス	16	5	10	▲ 6	+5
	医用	13	-	▲ 5	▲ 18	▲ 5
	半導体	107	135	140	+32	+5
	科学	7	5	10	+2	+5
	合計	209	150	160	▲ 49	+10

* MCT:Mechatronics (自動車計測機器)

3. 為替の売上高・営業利益への影響

(単位:億円)

2020年1-9月期 為替影響額(前年同期比)

2020年1-9月期	前年同期比増減
売上高の減少	▲18.0
売上原価の減少(逆符号)	+ 7.0
販売費及び一般管理費の減少(逆符号)	+ 4.8
営業利益への影響	▲6.1

(円)	2019年1-9月	2020年1-9月	レート差
USドル	109.12	107.55	▲ 1.57
ユーロ	122.62	120.93	▲ 1.69

為替感応度(2020年通期予想) 1円円高による売上高/営業利益の影響額

	売上高	営業利益
USドル	▲4.8	▲2.1
ユーロ	▲3.0	▲0.1

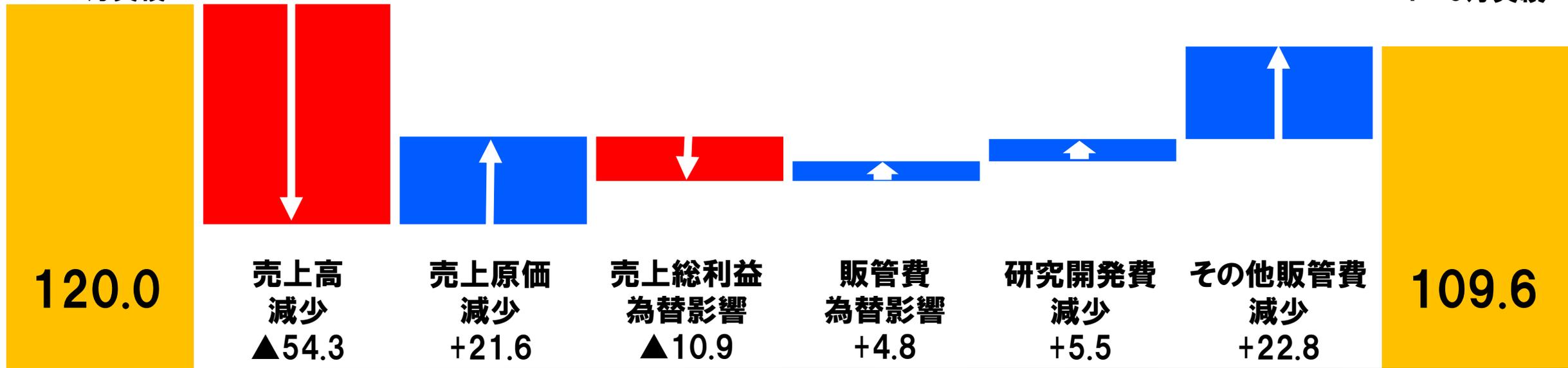
(円)	2020年通期予想
USドル	107.00
ユーロ	120.00

4. 営業利益分析(前年同期比較)

(単位:億円)

2019年
1~9月実績

2020年
1~9月実績



為替影響を除く

粗利の減少 ▲32.6

為替影響 ▲6.1

経費の減少 +28.3



5. 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(単位:億円)

設備投資額・減価償却費・研究開発費いずれも据え置き

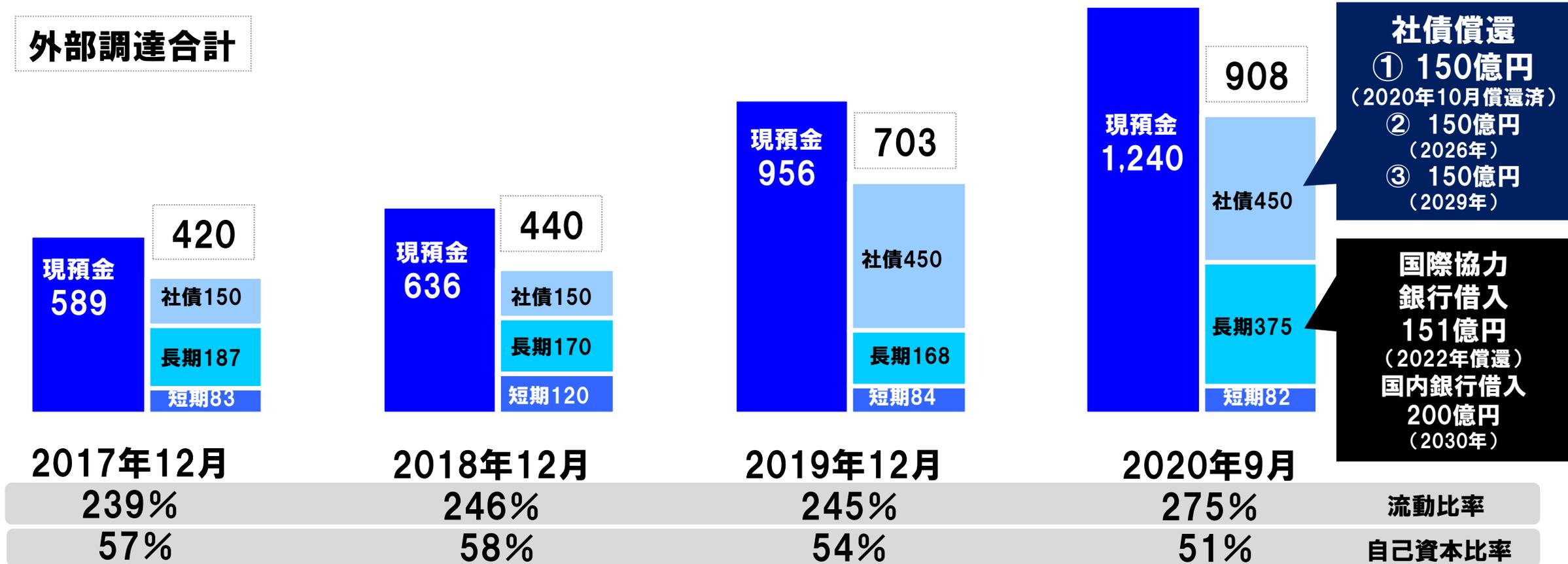
	2019年	2020年				2019年	2020年
	通期実績	前回予想 (8/11)	今回予想 (11/12)	VS 前年	VS 前回予想	1-9月実績	1-9月実績
設備投資額	128	175	175	+46	-	83	98
減価償却費	87	95	95	+7	-	64	71
研究開発費	162	160	160	▲ 2	-	122	116
(対売上高比)	8.1%	8.5%	8.5%	+0.4p	-	9.0%	9.0%

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮、緊急度・優先度を精査し、投資を判断

(連結ベース)
(単位:億円)

6. 資金の状況

外部調達合計



・直近の格付け: R&I 「A」(2020年9月)、JCR 「A+」(2020年8月)

7. 株主還元政策

配当金及び自己株式の取得

2018年実績 145円 [中間 50円、期末 95円]

2019年実績 130円 [中間 50円、期末 80円]

2020年予想 75円 [中間 30円、期末 45円] (6月9日公表より変更なし)

普通配当125円
創立65周年記念配当20円

基本的な考え方

- 配当金 + 自己株式取得 = 連結純利益 × 30% を目処
- 残りは戦略的投資資金として内部留保(設備投資・M&Aなど)

8-1. 注力市場に向けた新製品開発

【HORIBAが注力する3つのフィールド】

マーケット	Energy & Environment	Bio & Healthcare	Materials & Semiconductor
主な対象	モビリティ、発電、環境改善、水	臨床検査、製薬、創薬、細胞、遺伝子	先端材料、半導体素材
中長期経営計画MLMAP2023 – Market Oriented Business			

コア技術を活用した新たな分析・計測ソリューションを注力市場に展開

創薬や再生医療といったバイオ市場などでの展開

分光器ユニット「OC-300」

- ✓ 眼科での眼底検査などで用いられるOCT※システムのキーコンポーネント
- ✓ 試料の内部構造や形状を、高分解能、高速、非接触で撮影するイメージング技術

※Optical Coherence Tomography 光干渉断面撮影法



11月展示会にて初出展

半導体や二次電池などの材料開発、品質管理に貢献

遠心式ナノ粒子解析装置「Partica CENTRIFUGE」

- ✓ サンプル試料に含まれる粒子をナノレベルで測定
- ✓ 材料の状態を可視化



12月発売開始

8-2. 注力市場に向けた新製品開発

既存領域の強化と、成長領域でのさらなる挑戦

複雑な路上走行試験(RDE)をラボ内で高精度に再現

RDE:Real Driving Emissions
試験条件が大幅に拡大、運転・環境条件が複雑化

新アプリケーション RDE^{プラス}

- ✓ 屋外と同様の走行環境を室内で再現する計測手法を開発
- ✓ 実走行データを取得、台上試験機とロボットドライバーで再現



試作車制作コストを最大75%※削減可能に

※米国本拠の調査・コンサルティング会社 Frost & Sullivan の調査

車載用バッテリー向け安全性試験施設を開設



20年にわたり車載用
バッテリーの開発・試験に携わる

バッテリーの複合環境評価試験を可能に

- ✓ 中小型から大型バッテリーまで対応
- ✓ 振動試験中にバッテリーの充放電や温度調整を同時実施



製品開発の効率化とコスト削減に貢献

ご清聴ありがとうございました。